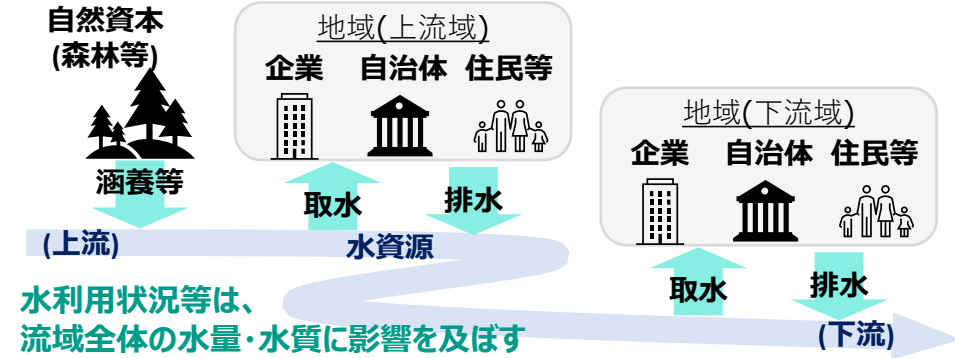


# 自然資本の経済的価値評価の活用可能性について（ウォーターポジティブに資する取組の価値）

## ウォーターポジティブ※の概要

- 「水の供給」は地域・企業の経営に欠かせない生態系サービスの一種。
- **上流と下流をつなぐネットワーク性**も有しており、各種**ステークホルダーが連携**して水資源の保全・持続可能な利用を推進する必要がある。

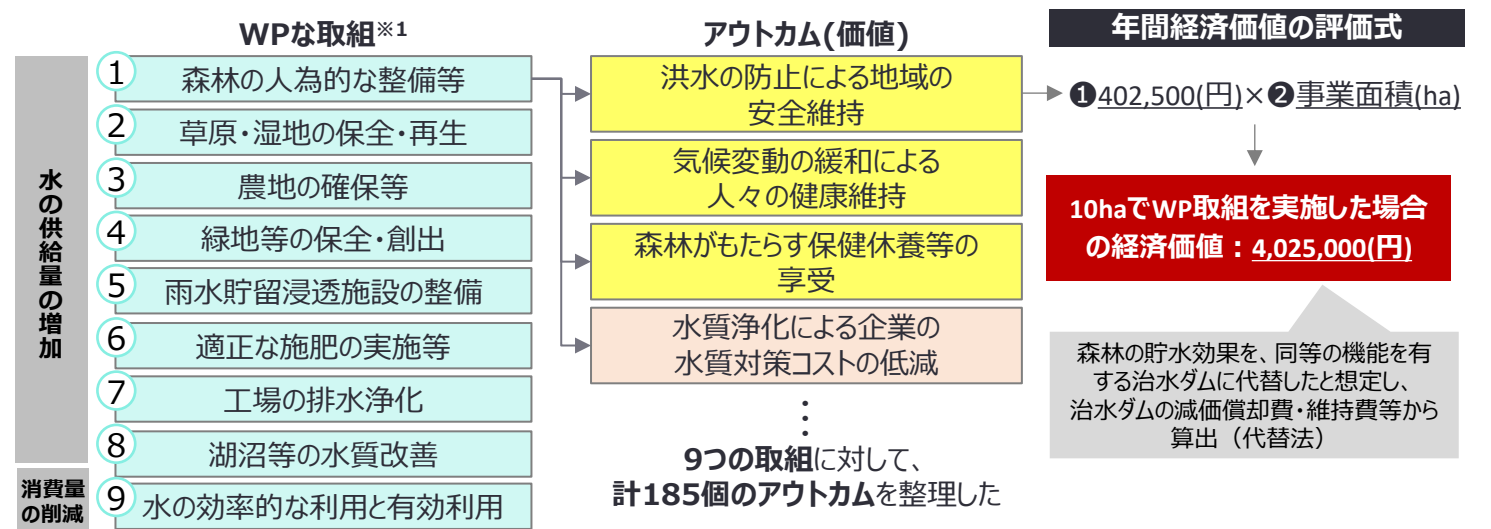
※ ウォーターポジティブ（WP）を「消費量を上回る水の供給による、持続的な水資源の利用」と整理



## WPな取組の価値

- WPな取組を「森林の人為的な整備及び保全」「工場の排水浄化」等の**9つ※1**に細分化し、**取組ごとに発生する価値のロジックモデル及び評価式を整理**した。
- 取組の価値は「**企業にとっての価値**」（資源効率（原材料コストの削減等）等に寄与）と「**社会的価値**」（豊かな生活の基本資材等に寄与）の2観点で整理※2。

WPな取組に関するロジックモデル(イメージ)



※1：正確には「森林の人為的な整備及び保全/林業生産活動等の産業を通じた森林整備」「草原・湿地の保全・再生」「農地の確保、農地の生産条件の維持及び向上」「涵養能力等を保持する緑地等（グリーンインフラ）の保全・創出」「雨水貯留浸透施設の整備」「耕作や畜産等における、適正な施肥の実施、家畜排泄物の適正な管理」「工場の排水浄化」「水環境悪化の著しい河川・湖沼・水路等における浚渫・導水等による水質改善」「水の効率的な利用と有効利用」の9つと定義した

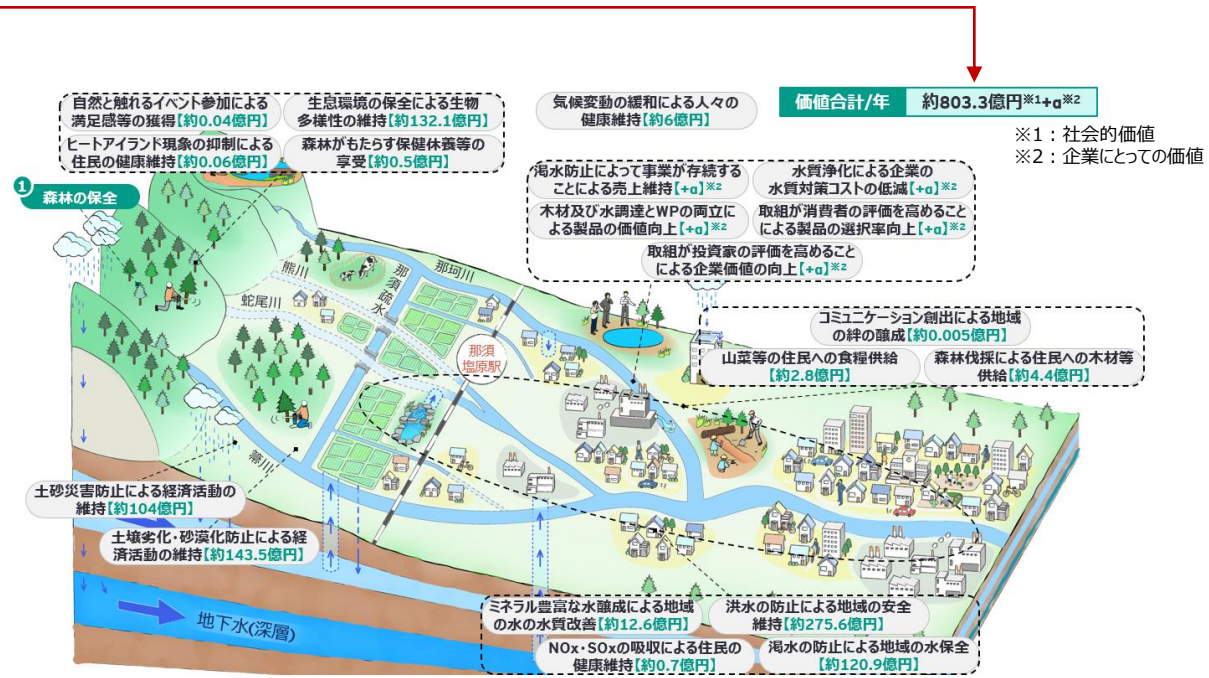
※2：経済的価値は「Recommendations of the Taskforce on Nature-related Financial Disclosures September 2023」(TNFD)における機会の分類を基に「市場」「資本調達」「資源効率」「製品・サービス」「評判」の5つに、社会的価値は「生物多様性及び生態系サービスの総合評価報告書」(環境省)における生態系サービスと人間の福利の関係を基に「安全」「豊かな生活の基本資材」「健康」「良い社会的な絆」「選択と行動の自由」の5つに定義し整理した。なお、企業にとっての価値、社会的価値に加えて存在価値(生態系等が存在していることそれ自体の価値)もあるが、社会的価値として整理した

# 那須野が原における企業等によるウォーターポジティブな取組の経済価値評価とその面的展開

- 那須野が原において、WPな取組<sup>※</sup>を実施した場合に新たに発生する価値/年を試算した結果、**最大約1,200億円/年+α**と評価。
- **経済価値評価によって、新たに創出される多様な価値の見える化**ができ、企業・自治体等が連携した地域主体のアライアンス発足や施策展開等を通じて、企業のWPな取組のさらなる促進、企業・地域の双方の価値向上につなげることができる。

## 那須野が原におけるWPな取組の価値評価結果（合計）

## 価値評価結果のうち、森林の保全による価値



※①森林の保全(那須塩原市・大田原市の森林面積の7割(36,667ha)を整備・保全する取組)、②平地林の保全(那須塩原市・大田原市の森林面積の3割(15,714ha)を整備・保全する取組)、③沼ツ原湿原、大沼園地、ヨシ沼園地の保全(沼ツ原湿原(10ha)、大沼園地(8ha)、ヨシ沼園地(6ha)を対象として人工管理を行う取組)、④越備(越備・寺子地区の農業用ため池(30か所、各2,500m<sup>3</sup>の貯水量)のうち、5%の水量を保全し、かつT-N(全窒素)を0.35mg/L除去する取組)、⑤越備・寺子地区の農業用ため池の整子地区の農地確保(越備・寺子地区の面積のうち10%(150ha)の水田を対象とした休耕田の再生・水田の整備を行う取組)、⑥域内企業の排水浄化(那須塩原市と大田原市の全事業所(8,061)において、窒素含有量の排水基準を3mg/L厳しく設定した取組)、⑦域内企業の効率的な水利用(那須塩原市と大田原市の全事業所(8,061)が工業用水の1%の節水を行う(1事業所あたり年間12,976m<sup>3</sup>の節水を行う)取組)の8つに設定